

※紙面をご覧ください

故宮博物院特別展・席上揮毫会で仲川恭司教授



上野の東京国立博物館で開催された台北・故宮博物院特別展「神品至宝」(6月24日～9月15日)を記念した席上揮毫会に、日本書壇を代表する書家の一人として仲川恭司文学部教授が登場。力強い筆致で臨書と創作を書き上げ、350人で埋まった会場から大きな拍手が寄せられた。

この企画は、同展に出版された書の名品を題材に言葉を選び書き上げる企画で、仲川教授は西周時代(紀元前9～8世紀)からの青銅器「散氏盤」を題材にして臨書。散氏盤の魅力と特徴を「文字は右下のほうに力が集まっている、右に少し傾いているため、左利きの人が書いたのでは、と言われている」と解説し、字の中心がずれていたり文字がつぶれているところを「野性的で素朴な古文字だ」と、その魅力を語った。

創作は「濃。仲川教授の持ち味である大書で書き上げ、披露されると会場から感嘆の声が。秘伝という自ら配合した墨を、さらに濃度を上げることで、実線がにじみが出るようにした」と明かした。

仲川教授のほかの揮毫者は、石飛博光氏と永守寛篤氏(いずれも毎日書道会理事)。東京博物館副館長の島谷弘幸氏による軽妙な司会で進められ、揮毫の台間には筆の使い方やスピード、リズム、墨の濃淡など書技について話が及び、3氏の個性のぶつかり合いに会場は大いに沸いた。

▲ 創作を書き上げ、解説する仲川教授(中央)。作品がスクリーンに映し出された

大塚尚幸さん(ネット情報4)

腕に覚えあり
カードマジック



鳳祭で公演 ▶

「今年は同会、音楽、とカードをさばく技術を照明が一体となった演出競い、6人中5位というでお見せしたい。今まで成績を残した(放映は昨年11月5日)とは一新さるつもりです。大学生活最後の鳳祭で見応えあるマジックに出演依頼が入り、カシオを、と大塚尚幸さん(ネット情報4)が得意な大マジックが得意なこと。当時キャリアは2年。マジックサークル(徳半。出演場面が放送されるかどうか成績次第だった)の代表だった1年だが、緊張のなかで善戦前、テレビ朝日の深夜番組に収録には7人が参加して、お願ひ！ラ加していたと明かす。テレビ出演を機に、マジシャンの曰く「プロベルアップを目指す機会が増えた」。

同じネタでも、プロはしゃべりや動きで全く別のマジックに変えてしまふ。聞いてみると単純なネタで驚きます。大先輩のナポレオンズ(ボナ植木さんとバルト小石さん)いずれも昭50文のボナさんには、あるイベントで「頑張るつもりだ」。

ロケラムに参加する国際交流協定校(米・ネブラスカ大学、同・オレゴン大学、アイルランド・ダブリン大学、台湾・中山大學)からの10人と一般学生1人、特別聴講生の7人の計18人が受講する。

期間は12月13日までの12週間。日本語学習のほか、企業見学などのフィールドトリップも体験。留学生のほとんどは6月に誕生した国際交流会館に入寮。9月9日から始まった寮内留学プログラムの参加生である日本人学生のレジデント・パートナー(RP)とも同居する詳細は次号。

力強く臨書と創作披露

18人が参加

BCL・秋期日本語

日本事情プログラム

2014年度「日本理解プログラム」(BCL)

解プログラム(おおよそ「秋期プログラム」)

期日本語日本事情プログラム

ラム)が9月10日からスタートした。22日にはウエルカムパーティーが開かれ、参加した日本人学生と交流した写真。

日本のビジネスと歴史、文化を学ぶBCLプログラムに誕生した国際交流会館に入寮。9月9日から始まった寮内留学プログラムの参加生である日本人学生のレジデント・パートナー(RP)とも同居する詳細は次号。



細は次号。